

第 35 回 反応と合成の進歩シンポジウム

開催報告	<p>第 35 回反応と合成の進歩シンポジウムは、平成 21 年 11 月 6 日(月)、7 日(火)の 2 日間、金沢市文化ホールにおいて開催されました。大学・研究所・企業からの 491 名の参加のもとに、2 件の特別講演と 171 件の一般発表(口頭 34 件、ポスター 137 件)が行われました。</p> <p>特別講演は、大阪府立大学大学院理学系研究科教授 柳 日馨先生から「ヒドリド活性種を活用する新しい炭素-炭素結合形成反応」と題する演題にて、また、京都大学物質-細胞統合システム拠点/化学研究所教授 上杉志成先生からは「化合物先導細胞学」と題する演題にて、それぞれの歩んできた研究過程から最先端の研究成果まで幅広く紹介され、参加者に深い感銘を与えました。一般発表は、本シンポジウムの討論主題である「ライフサイエンスを志向した理論、反応および合成」にふさわしく、複雑な構造様式をもつ生物活性天然物の全合成、不斉合成を含めた新規合成手法の開発、分子認識や機能性分子に関する発表のほか、創薬を目指した医薬品化学など発表内容は多岐にわたりました。今回のシンポジウムでは、口頭発表の希望が 55 件を数え、プログラム編成に大変苦慮いたしました。うち 21 件はポスター発表に回って頂かざるを得ませんでした。そのせいもあってか、ポスター会場は大変熱気に溢れ、終始活発な討論が行われていました。また、1 日目の晩に開催した懇親会も約 190 名の参加者があり、盛況のうちに予定の 2 時間が瞬く間に過ぎてしまいました。</p> <p>有機化学分野のシンポジウムは毎年数多く開催されていますが、日本薬学会化学系薬学部会が主催する本シンポジウムは、一貫して上記主題のもとに薬学の独自性を示す一方で、最も充実した有機化学シンポジウムの一つとして高く評価されています。</p>
討論主題	ライフサイエンスを志向した理論、反応および合成
日 時	平成 21 年 11 月 6 日(月)、7 日(火)
会 場	金沢市文化ホール (金沢市高岡町 1 5 番 1 号)
演題数	口頭発表 34 件、ポスター発表 137 件
特別講演	大阪府立大学大学院理学系研究科 柳 日馨 教授 「ヒドリド活性種を活用する新しい炭素-炭素結合形成反応」 京都大学物質-細胞統合システム拠点・化学研究所 上杉 志成 教授 「化合物先導細胞学」
参加者数	一般会員 274 名、学生会員 135 名、非会員 82 名
実行委員会連絡先	〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学医薬保健研究域 薬学系 第 35 回反応と合成の進歩シンポジウム実行委員長 石橋 弘行 E-mail: isibasi@p.kanazawa-u.ac.jp Tel: 076-234-4474 Fax: 076-234-4476